

アジア交通学会 (EASTS-Japan) 特別セミナーへの参加

2024年3月1日

■セミナーの概要

2024年3月1日、アジア交通学会 (EASTS-Japan) 主催、当研究所協賛で特別セミナーが開催され、当研究所より屋井所長がパネリストとして参加しました。まず、基調講演として、韓国交通研究院 (KOTI) 会長で、EASTS 前会長のオウ院長より、「韓国におけるモビリティ変革と鉄道投資戦略」をテーマとする講演がありました。



オウ院長による講演

この中で、オウ院長は次の趣旨を述べました。「モビリティ変革の歴史をみると半世紀毎に新しいモビリティが誕生しており、今後2、30年で新たなモビリティが生まれる可能性が高いと考えている。他方、輸送には3つのコスト、すなわち渋滞コスト、事故コスト、環境コストがあり、これらにより韓国のGDPが7、8%悪影響を受けている。そのような状況の中で、これからの10年が将来のモビリティの方向性を決定づけると考えている。そのためには、自動化、電化、シェアリングの3つの革命が重要である。今後目指すべき目標としては、排出ゼロ、事故ゼロ、廉価であることや、技術革新と経済効率と一般社会からの受容性の融合が必要である。また、今後の戦略としては、市場ベースのエコシステムへの変換のための国家戦略の策定、3つの革命の同時転換、社会的に受容される変換、モビリティサービス創出に向けた実証事業の支援、新しい人材の社会保障ネットワークと育成を最優先課題とすべきことが必要である。次に、鉄道の投資戦略については、韓国は今ピークともいえるほど鉄道投資をしており、特に高速鉄道の整備により韓国における鉄道に対する国民のイメージが大きく変わることとなった。特に中・長距離輸送で、車から高速鉄道へのモータリシフトが起こっている。しかしながら、現在でも都市圏では車利用が増加しており、また、高速バスも廉価で直接目的地まで行ける利便性等により、依然として主要な輸送手段となっている。また、国家鉄道投資計画も策定されており、以前の鉄道に対する環境悪化というイメージが、高速鉄道の整備により払拭され、安全で環境にも良い輸送システムと考えるようになり、高速鉄道は中央政府100%の公的資金で整備されている。さらに、整備地域の地価も上がり、政治家も強い関心を示すようになった。現在の主要政策課題としては、人口減少と鉄道輸送需要の問題、垂直分離等の運営システム、鉄道投資の資金調達、公共サービス義務と民間サービスでの実行可能性の問題、地下鉄などの問題がある。」

講演終了後の質疑応答の中で、オウ院長は次の趣旨を述べました。「鉄道の経済効果について、数値的なものは算出しているものの、それ以外の効果を加味して整備を進めてきてお

り、多くの公的機関が地方に移転していたり、地方の格差是正にも貢献している。公共交通の利用促進は、政策と規制をうまく使いながら誘導していくべきである。鉄道プロジェクトは単体では利益が出ないものだが、鉄道駅が地域の社会活動の中心となるなど社会的メリットが大きく、公的支援が不可欠である。」

次に、EASTS 元会長（第6代）の屋井所長、EASTS 前会長（第7代）のオウ院長、EASTS 現会長（第8代）の広島大学藤原教授によるパネルディスカッションが、EASTS 事務局長の東京工業大学花岡教授の司会により行われました。



パネルディスカッション（左から屋井所長、藤原教授、オウ院長）

パネルディスカッションでは、「モビリティ転換について基調講演を踏まえた日本の事例を議論」、「日本、韓国、アジア諸国における高齢化社会における交通の意義」、「人口減少社会における鉄道等の交通インフラの投資と運営」という3つの話題について議論が行われました。この中で、屋井所長は、今後目指すべき目標について、技術革新と経済効率と一般社会の受容性に加えて、人心の変革も加えるべきであることなどを述べました。

その後、会場及びオンライン参加者からの質疑応答が行われ、TOD、新モビリティ、都市計画における土地利用と輸送の統合などが議論されました。

最後に屋井所長から閉会挨拶があり、オウ院長のEASTSへのこれまでの貢献や、運輸総合研究所とKOTIとの長年の協力関係構築に多大な貢献をいただいたことなどに対し、感謝の意を表されるとともに、記念品の贈呈が行われました。



記念品の贈呈（左から藤原教授、屋井所長、オウ院長、兵藤 東京海洋大学教授（前EASTS事務局長））